

やすらぎ



「歎異抄」(第四十七回)

榎 暁 講述

「歎異抄」 後序 続き

往生の信心においては、まったくことなることなし、ただひとつなり」と御返答ありけれども、なお、「いかでかその義あらん」という疑難ありければ、詮するところ聖人の御まえにて、自他の是非をさだむべきにて、この子細をもうしあげれば、法然聖人のおおせには、「源空が信心も、如来よりたまわりの信心なり。善信房の信心も如来よりたまわらせたまいたる信心なり。されば、ただひとつなり。別の信心にておわしまさんひとは、源空がまいらんとする浄土へは、よもまいらせたまひそうらわじ」とおおせそうらいしかば、当時の一向専修のひとびとのなかにも親鸞の御信心にひとつならぬ御ことも、そうろうらんとおぼえそうろう。

(真宗聖典六三九頁)

法然聖人のおおせには、源空が信心も如来よりたまわる信心で、善信の信心ではありません。信心が別であったならば、別の信心を持っている人は私が往生しようとする浄土へは参ることが出来ません。他の仏土に往生することがあっても阿彌陀仏の浄土に往生することは出来ません。智慧才覚で往生するのはありません。信心で往生するのです。

「とおおせそうらいしかば」とは法然上人がこの様に仰っていること。

一向専修とはただひたすらに念仏を申していること。

「親鸞の御信心にひとつならぬ御こともそうろうらんとおぼえそうろう。」とは、親鸞聖人の御信心とひとつで無い人もありましたと、唯円が思っていること。だから、信心が異なるということは唯円が今聞いている、親鸞聖人が亡き後の関東教団の中で初めて起こ

光照寺寺報

発行所
真宗大谷派 弘興山
宗教法人光照寺
〒331-0821
さいたま市北區別所町102-2
電話：048-651-2781代
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://koshoji76.jp
発行人 池田孝郎

つたことでは無い。既に、法然上人の古水教団の中でも信心が異なるということがあり、二時期、一条件の中で起こったことでは無く、信心が異なるということは念仏者として大問題である。

「たまわる」とは、私の信心は南無阿彌陀仏のはたらきそのもの、私の中に如来がいつも呼び覚ましのはたらきを實現しておいて下さるということ。つまり、我と如来が二つある様だけれども、二つでは無い。南無阿彌陀仏が真の姿。

俺が俺という心が消える、あつても無いのと同じことになる。我々は俺が俺という心で動いている、私が念仏を称えるというのでは無く、南無阿彌陀仏が私を私たらしめている。俺がという心がお念仏によって破れる、だから普通の信仰とは違う。

どれだけ教えを頂いても、俺が俺がという心が抜け無い、この様な私を見捨てずに、あなたの主体は南無阿彌陀

仏だとわたくしにいつもはたらきかけて下さる。

だから南無阿彌陀仏の他に、私の救いは無い。南無阿彌陀仏のはたらきそのものは、本願のはたらき、あなたを決して見捨てない。法然上人の御言葉でいふならば、いくらものを知っていても、我が身には賢き事一つも無し。賢いというのは知識が有るという世間的な賢さでは無く、物の道理に従って生活主体が行われることで有り、そのような賢さは私には無い。やはり俺が俺という愚かな者だという我が身を深く信じているという事。

(当寺)法話抜粋要約、文責副住職 釈徹照 次回へ続く



花まつり本堂にて

甘茶かけ

子供会報告

孟蘭盆会法要

詳細は3頁

詳細は3頁



の姿でありましょう。昔から比べれば確かに便利になり、物も豊富です。が、しかし、本当に不安も、恐れも、不満も解消しているのでしょうか。

真宗会館の機関誌、「サンガ」に、「絶望の国の、幸福な若者たち」と題して、社会学者の古市憲寿氏が、『意外にも、若者たちの生活満足度や幸福度は実は高いのだという。決して若者たちに希望があるからではない。もはや自分がこれ以上は幸せにならなと思えないとき、人は「今の生活が幸せだ」と答えるしかないのだと』言われている記事を読み、世相を一面写し出している視点として考えさせられたことです。「答えるしかない」の返答に象徴するように、ある種の諦めを感じたことです。

「諦めは悟りに似たり」という諺がありますが、決して諦観した心境ではありません。仕方無いと断念の憶いが含まれていることです。

言葉、文字の恐ろしさとしての「諦」にあると思います。本来この字は、「つまびらかにする。あきらめる。まこと。真理。悟り」を意味するものですが、日本語となると、「あきらめる。しかたがない。できないこと」として物事をやめる。」となってしまう言葉の意味です。この差が、「似たり。」なのでしょう。そ

こには「空しさ」が内在しています。この字の、「空」も仏法では悟りの言葉です。しかし、漢字を日本語に直すと「むなしさ。」になってしまう。この「ジレンマ」をどう超えるかがわれわれに問われていることです。

外に目を向ければ、自然は美しく素晴らしい、が、自然の脅威に成す術もない。人類の進歩は素晴らしく便利になった、が、却って不便と感じ、脅威に戦く。内に目を転ずれば、思いと現実に呻吟する自己がある。外にも内にもこの矛盾の前に呆然とする。これも運命かと思っても、ただ、佇むばかりの虚しさに立脚地を失う。

これは前述の若者ばかりではなく、老も若きも今日の心相でありましょう。

この事を既に聖徳太子は「十七条憲法」に「其れ三宝に帰りまつらずは、何をもつてか枉れるを直さん。」と言い当てておつて下さいます。清沢満之師は、「自己とは他なし、絶対無限の妙用に乗託して任運に法爾に、此の現前の境遇に落在せるもの、即ち是なり。」と示されている。唯、念仏し浄土を志求し、自他共に救われる世界を求め歩んで参りたいと念願するばかりです。ここに本当の豊かさがあります。

南無阿弥陀仏。

真の依り処

先回の続き 弥陀の本願には老少善惡のひとをえらばれず。ただ信心を要とすとするべし。この言葉に感動され先生は事実助けられた方であると。先生の一言一言が重みがありほんとうに救われ助かった方だ。この先生について行こう。それから夢中で聴聞。ある時、一心にお念佛申していました処、不思議な体験をさせて頂き、身体の呪縛がとかれ全く軽くなり明るい処に出たようでした。昨年二月大切な次男が病気で無量寿に還って逝ってしまった、この身の宿業因縁の深さに言葉にならない忙しさとくやしさがだけが煩惱からふき出し涙の留まることなくお念佛を申すばかり。阿弥陀様よりおあずかりしこの世で四十五年間親子にさせて下さいました事に感謝し、弥陀の元で又何かお役に立っているのでしょうか。合掌。岡田ノリ子

鈴の音

私の上にあるものは
全部賜うたものである
細川 巖
(蓮如上人御代記聞書讃仰)

盂蘭盆会法要

- ・8月11日(木) 祝日
- 第一部(午前) 9時30分受付
午前 10時～11時30分まで
- 第二部(午後) 1時受付
午後 1時30分～3時30分まで
- ・光照寺本堂にて
- ・勤行・法話

※準備の都合上、出席人数と午前か午後の参詣をご連絡下さい。預骨、初盆の方は率先してお参り下さい。また、どなたでもお参りできます。真宗のお盆に触れて下さい。ご参詣をお待ちしています。

お盆参り

- ・7月13日から16日の期間
- ・8月 1日から16日の期間(11日は除く)

※ご希望の日にちをお知らせ下さい。時間につきましては、こちらで調整して連絡させていただきます。ご自宅か当寺のいずれかで読経いたします。

ひとくち 歎異抄

羅漢：人間は悪を廃し、善を修すことができるか。

「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし。」

第13章



「業報にさしまかせて、ひとえに弥陀の本願をただ、たのむべきです。」

川越喜多院の五百羅漢

お盆



新緑の青々とした草木を見るとその生命力や躍動感の凄さを感じます。私達は、自然界において生命の誕生と死滅が織り成され形成されるこの自然に、ある時はその生命力に感動したり、また一方で自然災害に見舞われると自然の恐ろしさを実感します。

そういう意味においては、私達は自然から「生きる」ということと、「死」ということを教えられています。しかし、自我中心に生きる我が身においては、状況によって喜んだり悲しんだりしている

存在であることは拭えません。

自我中心に生きる我が身を照らし、真実のみ教えに出遇って欲しい(いのちが本当に成就するみ教え)という仏の声を我が身に傾かれることがなかったら、人生の空しさに愚癡をこぼして生き死にするしかありません。そうあつてはならない、成就するいのちを全うしたい、という人が阿弥陀さんの本願を聞きぬき、人を通じて発せられていることが傾かれたとき、諸仏、善知識と仰いでお念仏が伝承されています。

亡き人を偲び、ご一緒にお念仏申しましょう。

お盆法要は二部制にて厳修致します。多数のご参詣をお待ちしております。

(副住職 釈 徹照)

子供会報告

子供会「ボニークラブ」

花まつり

坊守 池田 邦子

花ぐもりの朝でした。新年度の始まりの日である。大人十五名、小人十名、初参加の文子先生、准坊守恵美さんのママ友お二人親子の参加もあつて、大変心強く思いました。一年毎日々子供達の成長には目を見張るばかりです。

陽子さん導師の勤行に始まり、自己紹介、本山出版「花まつり」の冊子を配り、花御堂の御釈迦様へ甘茶かけのお参りをし、生誕のお祝いと、子供達の成長を願いました。賛歌も歌いました。車に分乗し丸山公園へ移動、幸い藤棚の下の大木な木のテーブル、イスあり。早速若いママのお

自己紹介



楽しかった
公園遊び



丸山公園にて



手伝もあっておいなりさん、焼ソバ、煮物、お漬物等々花よりダンゴでお腹いっぱい大満足、食後は折り強い風に吹かれたが、子供達は遊具で楽しく過ごされた様です。寺に戻り恩徳讀で散会としました。次回は八月十九日(金)予定をしています。御参加をお待ちしています。

お知らせ

— 寺務所より —

●法要のご案内

●孟蘭盆会法要 八月十一日(木) 祝日、午前・午後の二部厳修。

●秋季彼岸会法要 九月二十二日(木) 午後一時三十分より厳修。

●報恩講 十一月二十六日(土) 講師は田畑正久先生(龍谷大学大学院教授、佐藤第二病院院長、午前十一時より厳修。

●光照寺護持会総会

六月十九日(日) 午前十時より開催。

講師は佐々木玄吾先生(いずみ会館館主)。アトラクションもあります。

●光照寺旅行

十月二十九日～三十日、富山・金沢を旅行します。

●聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のお教えに聞く会

講師は延塚知道先生(大谷大学特別任用教授) 七月八日、九月十六日、十一月十八日、午後一時半～四時半。『教行信証』を学んでいます。

●大経の会

七月二日、九月十一日、十月二十四日、午前十時～午後三時まで。講師は佐々木師と住職の担当月別。細川巖著『正信偈讃仰』(五)を学んでいます。お弁

当持参して下さい。

●我聞の会

六月七日、七月十一日、九月六日、十月十七日、午後二時～四時まで。講師は住職。『真宗の簡要』(住職著、サブテキスト「無量寿経に聞く」(松原祐善著)を学んでいます。

●微風学舎

六月十四日、七月十九日、九月二十七日、十月十八日。午後七時～九時まで。講師は副住職。『顕浄土』の教学・親鸞における現生不退の視座・サブテキスト「今日のことは」「真宗の生活」を学んでいます。

●さいたま親鸞講座

午後二時～四時まで。会場は大宮川鍋ビル。八月六日、十月八日、十二月十日、講師は四衛亮氏。

●お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。宜しく願います。住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。

俳句・川柳



吉澤 光昭

水面ふれ水は乱さぬ柳糸かな
かたくりの咲きし斜面や城隈ぶ
藤房のうねり連らねし古利かな
針一本新茶注ぎて立ちにけり

「太子立像」

三峯の神杉びづく春の風
古墳山どこも眠たき百千鳥
里ざくら愛し母なり農婦たり
あはがりと言ふて呟く葱坊主
(有田にありませう)

江部 良吉

山田 恒

原発が同じ立てる大鯨
清水の舞台えにしにの風に会う

短歌(詩)



佐々木玄吾

子ども等と植えしジャガ芋芽を出しぬ
光を浴びて葉を広げたり
妻と二人多摩川行けばウグイスの
さえずり聞こゆ近くに遠くに

佐々木文字

花祭り甘茶を灌ぐ幼な児ら
もみじ手合わせナムアミダブツ
春うらら川辺の梢でホーホケキョ
水面に遊ぶ水鳥の群れ

赤秀 品枝

道すがら花の香りをかきながら
思いは遠く熊本の空
なかなか捨てられもせずサビとアカ
今年の目標身辺整理

梵鐘

御晩年の親鸞聖人の特色は三つある。一つはお念仏を申すことを強く勧められるようになった。二つは法然上人の教を頂きかえされた。三つは宿業の身ということを初めて言われるようになった。宿業とは「私の受け取るべき現実である」「現実とは家内であり、こどもである」と細川先生は申されている。親鸞聖人は八十四才の時に、わが子善鸞を義絶され、親子の縁を絶たれた。宿業という言葉はそれ以後に出てくる言葉である。わが子善鸞をわが宿業と受けとめて、これを背負って念仏してゆかれたのである。ここに晩年を生きる私の道が示されているのだと思う。

(玄吾)



紫陽花(水彩)

山田 邦興 画